



## 豊かな表現のインプット(読書)からアウトプット(書く)へ

八木南小学校 校長 佐藤 智子

【前号に続き】学習連絡日の2～6年課題「バイキング日記」より  
～25個のテーマの中から選んで毎日書く「三行日記」～

①〈5月7日の学習連絡日〉学校に行った。けどいつもとは違った。しゃべりたかったけどしゃべれなかった。近くにいたけどしゃべれないのが悔しい。【4年：齋藤 環】  
②〈5月22日の学習連絡日〉上村先生が林間学校の流れを全部決めていたことに驚きました。僕も林間学校を楽しみにしていたので残念です。計画を立てた先生も残念そうでした。【5年：古我 建】

児童も教師もこの数ヶ月、割り切れない無念さ(林間学校は当初案から時期を遅らせた代案を立てた矢先の中止でした…)を味わったことが伝わる日記です。ですが、ようやく通常登校が始まり、児童の姿がそろいました。コロナ禍の中で中止や延期が相次ぎましたが、「ピンチはチャンス」—「できない、無理、あきらめる」ではなく、「できる方法、新たな形での挑戦」をしていく—その気概や姿勢こそが、不確定な未来を切り開く子ども達を育てる私たち教師に求められています。既に先生方から新たな挑戦が提案され、実施されている取組もあります。右で紹介している「6年生から1年生に手紙を渡す会」や「今月のボディパーカッション」、「リズム縄跳び」(縄跳びは自然にソーシャルディスタンスを保つ取組。学級毎に音楽に合わせたダンス的な振り付けを動画撮影。給食中に発表を見合う)など、「新しい学校生活様式」の中でも児童同士が交流できる活動を行っています。この「バイキング日記」も児童と教師が交流できる大切な場となっただけでなく、子ども達の“豊かな表現力”を引き出す学習にもなりました。次に紹介するような何気ない日常の一コマの記述に、児童の感性や想像の豊かさが“豊かな表現力”につながることを感じさせられます。



①夜ご飯で僕はスコップコロケを食べました。ホクホクのおいもと、お肉の絶妙なバランスが良く、ソースとの相性も良かったです。【4年：知久 友翼】  
②私はあんこのお団子よりもみたらしが好き。ピカピカ光ってる透き通ったタレの向こうに、焼き色が透けて見えるのが大好きだ。【5年：鈴木 碧海】  
③(散歩の途中)階段にトンボがいました。トンボにアリの近づくと違う段に逃げていきました。まるで鬼ごっこみたいで思わず笑ってしまいました。【5年：岡崎 高拓】  
④今日、(ハムスターのふんを取っている時、ハムスターが割り箸をかねて、「放して」と言っているのにやめない)ので、つな引きみたいでおもしろかったです。【5年：伊藤 なごみ】  
④(母と散歩の時)今朝は快晴、青空に雲が全然ありませんでした。すれ違う人に「おはようございます!」とあいさつをして私の心も青空のようにすっきりとしました。あいさつって良いですね。【5年：大竹 すみれ】



本校では国語の研究が4年目になり、研究テーマは「**豊かな表現**」に学び、「**豊かな表現**」ができる子の**育成**」です。読書で“豊かな表現”のインプット、「書くこと」で“豊かな表現”のアウトプットを図ります。

アウサー宇垣美里さんが「書くこと」について右のように、詩人のまどみちおさんは下のように語っています。子供達は、生活の中で出会う、食べ物、小動物、空の様子から「不思議」や「驚き」を実感し、のびのびと表現しています。

書くとは、(私)が心から感じる(不思議)(驚き)の(実感)からしか生まれない。  
【朝日新聞2019/5/29より】

“嘘のない”“一番自分の言いたいこと”を豊かに表現できる児童の育成を目指し、全職員で研修と実践を進めて参ります。

自分を表現する方法がいろいろある中で、「書く」は一番嘘がないものだと思います。「話す」言葉は強いし、速度が速いけれど、思ってもないような言葉が出ることもあります。でも「書く」言葉は、何度も推敲して、見返して、余分なものを削いで一番自分の言いたいことを表現できるものだと思います。  
【漢検ジャーナル vol30 P4 より】

また、宇垣美里さんは、大の読書家で、小学生時代は学校図書館にあるほぼすべての本を読んだそうです。宇垣さんの、本の中のお気に入りの一文を、右に紹介します。コロナ禍から、様々な「捨て去らなければならない」行事や取組がありました。子供達の楽しみややり甲斐を思うと無念さは拭えませんが、この一文と宇垣さんのコメントを読み、「捨て去ったものの責任の取り方」は、今できる教師と児童との一つ一つの学びを充実させ、一生懸命頑張ることしかない、と教職員一同、自身を奮い立たせてもらいました。やはり、読書からの“豊かな表現のインプット”は前に進む力をくれるものだと思えました。

「捨て去ったものに責任を果たすためには 選んだものを大事にするしかない」

中山七里『おやすみラフマニノフ』より

取捨選択は人生の常。選ばなかった人生を歩きたかった私に対しての責任の取り方は、今歩んでいるこの道を一生懸命頑張ることしかない。そんな風に自分を奮い立たせてくれます。

【漢検ジャーナル vol30 P5 より】

## School Events



31 (金) 1学期終業式 給食最終日	3 (月) ~ 7 (金) 6年午前登校 8 (月) ~ 14 (金) 学校閉庁日 24 (月) 2学期始業式、給食開始	26(水) 5・6年身体測定視力検査 27(木) 3・4年身体測定視力検査 28(金) 1・2年身体測定視力検査
------------------------	--	--

## School Days

### 学校再開

6月8日から朝の会でボディパーカッションを始めました。歌が歌えないので、音楽に合わせて体を動かします。

1年生は図書館司書の山田先生と担任の先生とで図書室の本の貸し出し方法について勉強しました。なんと分散登校中に60冊以上の本を読んだ1年生の児童もいました。



【5年生のボディパーカッション】



【1年生図書の本の貸し出し】



【6年生から1年生へ手紙を渡した会】



6年生が休校期間中に、1年生に心を込めて手紙を書き、それを渡す会を行いました。最後に校長先生から「1年生の皆さん、お家の人にもぜひ読んで聞かせてあげてくださいね。」とありました。分散登校のため全員そろった中でできませんでしたが、心温まるささやかな会となりました。

## Attention

### 分散登校初日、NHK、読売新聞の取材を受けました

NHK千葉放送局や読売新聞社が、分散登校の様子を取材にきました。新型コロナウイルス感染症予防のため、登校時に昇降口で非接触型検温計で検温している様子や、手洗いの指導の様子が報道されました。NHKのNEWS WEBで6月1日12:36にアップされています。読売新聞では、6月2日の朝刊に記事が掲載されています。

### 令和2年度PTA運営委員会

7月8日(水)にPTA運営委員会を実施します。書面決議を経ての、新体制での会議になります。新型コロナウイルス感染症予防のため、当初の計画通りに出来ないこともあるかと思いますが、今年度のPTA活動に、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。

